

INNOVATION **by Chemistry**

Contents

02 INNOVATION BY CHEMISTRY

10 INTEGRATED VALUE CREATION

- 12 財務・非財務ハイライト
- 14 株主・投資家の皆様へ
- 19 特集: 中期経営課題「プロジェクトAP-G 2016」
- 29 セグメント別活動状況

38 INTEGRATED VALUE MANAGEMENT

- 40 研究・技術開発・知的財産
- 45 サステナブルマネジメント

プロフィール

東レグループは、「すべての製品の元となる素材には、社会を本質的に変える力がある」という強い信念のもと、「先端材料で世界のトップ企業を目指す」総合化学企業集団です。

コア技術(有機合成化学、高分子化学、バイオテクノロジー、ナノテクノロジー)を価値創造の源泉として、基幹事業(繊維事業、プラスチック・ケミカル事業)、戦略的拡大事業(情報通信材料・機器事業、炭素繊維複合材料事業)、重点育成・拡大事業(環境・エンジニアリング事業、ライフサイエンス事業)を世界25カ国・地域で展開しています。

また、「わたしたちは新しい価値の創造を通じて社会に貢献します」という企業理念のもと、ケミストリー(化学)の力で地球規模の社会的課題に挑戦するとともに、すべてのステークホルダーにとって高い存在価値のある企業グループを目指しています。

企業理念

わたしたちは新しい価値の創造を通じて社会に貢献します

経営基本方針

お客様には、新しい価値と高い品質の製品とサービスを。

社員の人人には、働きがいと公正な機会を。

株主の皆様には、誠実で信頼に応える経営を。

そして、社会の一員として責任を果たし相互信頼と連携を。

“Innovation by Chemistry” に込めたわたしたちの思い

東レグループは2006年4月、“Innovation by Chemistry”をコーポレートスローガンに掲げ、Chemistryを核に「先端材料で世界のトップ企業を目指す」と宣言しました。

「**Chemistry**」という言葉には2つの意味が込められています。

1つは「化学」を核にして先端材料を提供していくという意味であり、もう1つは、「融合」です。

お客様、社員、株主、取引先、一般消費者、地域社会など、東レグループを取り巻くすべての人たちとの良好な関係と、東レグループの各企業や世界各国の事業拠点同士の「融合、連携」を意味しています。

「**Innovation**」は、東レの企業理念「わたしたちは新しい価値の創造を通じて社会に貢献します」を具現化する表明に他なりません。これは、また、技術の革新のみならず、企業活動のすべての領域で「Innovation」に挑戦していくということを表明しています。

業務予想に関する注意事項

本報告書中の2014年度の業績見通し及び事業計画についての記述は、2014年8月7日における将来の経済環境予想等の仮定に基づいており、当社の将来の業績を保証するものではありません。

ADVANCED

Materials generate...





ADVANCED

Materials

generate Future Industry

ある時代に創出された先端材料が、
その次の時代の産業を牽引してきたことは
歴史が証明しており、
すべての製品の元となる素材には、
社会や人々の生活を本質的に変える力があります。

東レの合成繊維技術の粋を集め、衣料に画期的な「機能」を付加し、着る人に一層の快適さを与えるものにしたのが、2003年にユニクロと共同開発したヒートテック®です。代表的な機能である発熱・保温をはじめ、さまざまな機能を併せ持ったヒートテック®は、なおも進化を続けながらグローバルに成長する商品となっています。

ヒートテック®は、(株)ファーストリテイリングの登録商標です。



東レ株式会社
代表取締役社長
日 覺 昭 廣



GREEN technologies lead to...





GREEN

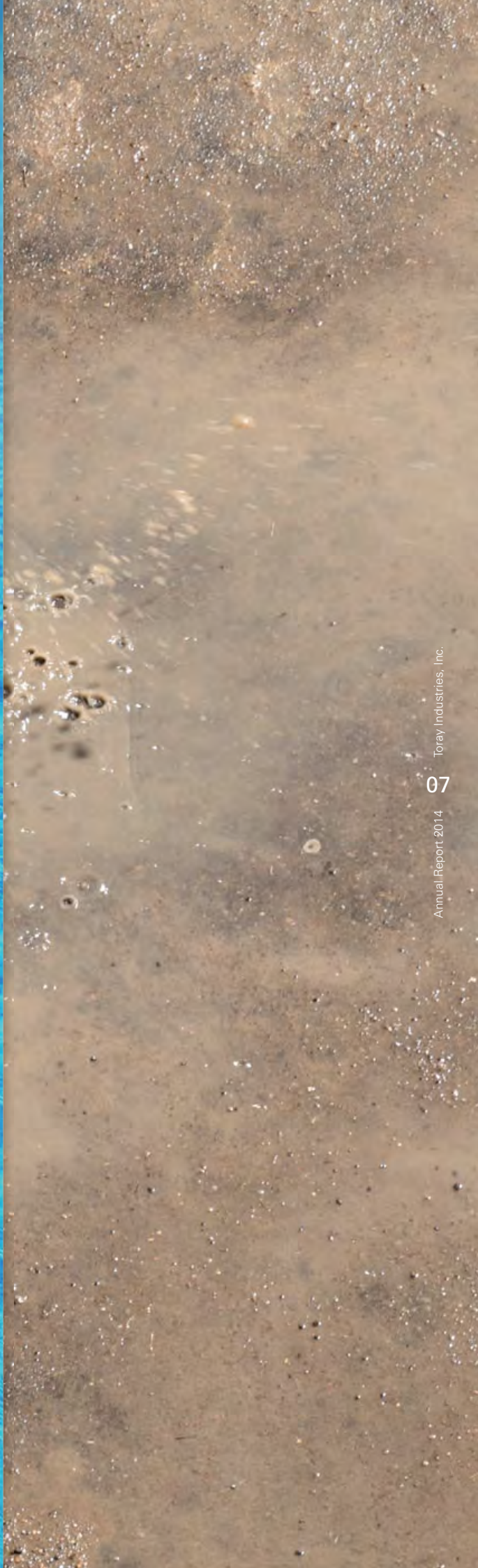
Innovation

グリーンイノベーション

わたしたちは、ケミストリーの力を駆使して、地球環境問題や資源・エネルギー問題など人類共通の課題解決に取り組んでいます。

東レが世界に先駆けて開発をスタートし、粘り強く事業化を目指して取り組んできた炭素繊維複合材料は、米ボーイング社の最新鋭旅客機787の主要構造部材として全面採用され、軽量化・CO₂排出削減に大きく寄与しています。また、シェール革命によって、近年ますます注目を集める自動車向けなどの圧縮天然ガス(CNG)タンク向けにも炭素繊維の需要は拡大しています。

そして、環境負荷を軽減しつつ、海水を飲み水に変えることができる東レの海水淡水化技術。世界には、水に恵まれない地域がたくさんあります。東レ独自のナノテクノロジーが生み出した水処理用逆浸透(RO)膜は、アフリカ(アルジェリア)やアジア(シンガポール)最大の海水淡水化プラントにも採用され、経済成長に伴って水需要の急拡大している中国でも導入が増えており、世界で1億人以上の生活用水を作り出しています。





L I F E w i l l b e b e t t e r w i t h . . .





L I F E

Innovation

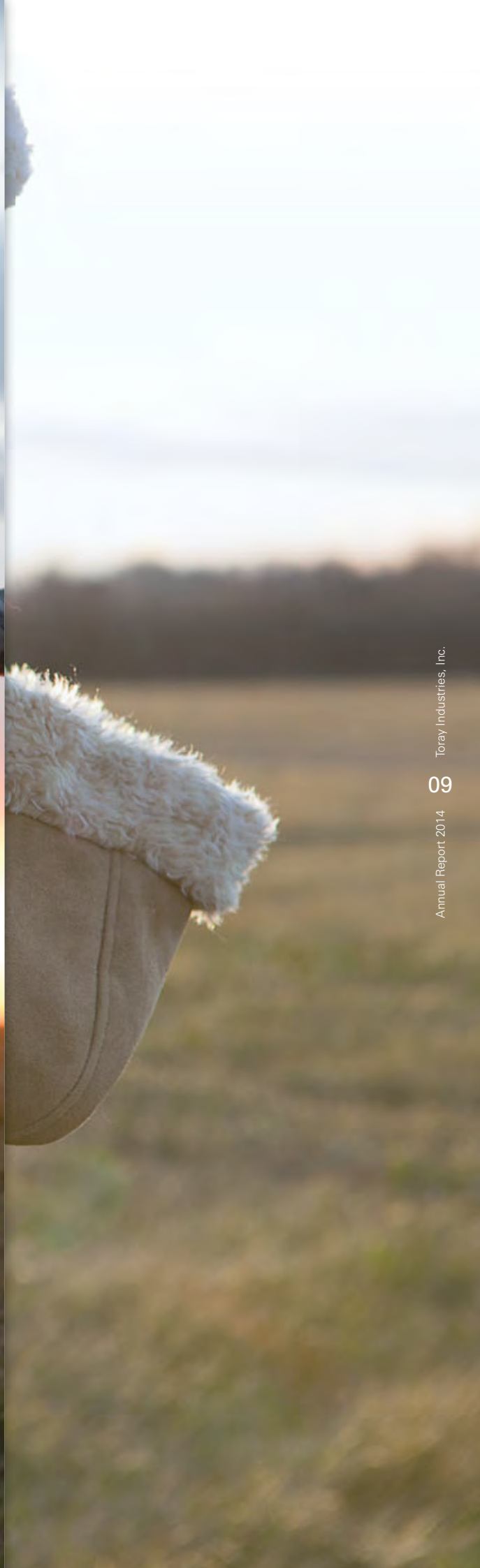
ライフイノベーション

わたしたちは、医療の質向上と医療現場の負担軽減に貢献しています。

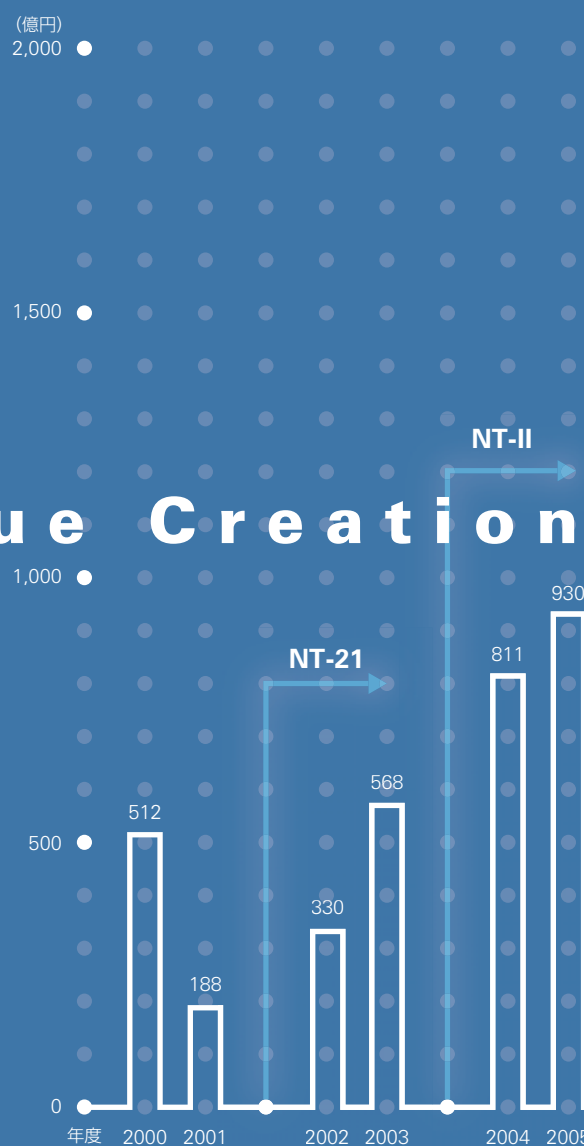
東レグループは1970年代から本格的に医薬品・医療機器の開発を開始し、これまで医療の質向上に貢献してきました。医薬品ではフェロン®(ウイルス性肝炎、悪性腫瘍治療薬)、医療機器ではフィルトライザー®(人工腎臓)など先駆的な製品をはじめ、継続的に新製品を開発し、現在の医療現場で役立てられています。

また、東レグループの高機能繊維は、医療関係者の病院用衣料をより清潔・快適に保持できるほか、患者様用の衣料としても、不便さを軽減することができます。このほか、高いX線透過性を持つ炭素繊維複合材料製のCT装置用天板は、少ないX線量でもより高精細な画像を得ることができるため、患者様の被ばく量を低減させることが可能です。

東レグループは、医薬品・医療機器に加え、先端材料を用いたライフイノベーション分野の製品やその部材において、今後も新たな貢献が実現できると考えています。



INTEGRATED Value Creation



連結営業利益の推移

Contents

- 12 財務・非財務ハイライト
- 14 株主・投資家の皆様へ
- 19 特集: 中期経営課題「プロジェクトAP-G 2016」
- 29 セグメント別活動状況

長期経営ビジョン“AP-Growth TORAY 2020” 東レグループは、事業収益の拡大や、グローバルな事業拡大を一層推進するとともに、グリーンイノベーション事業の拡大に加え、ライフイノベーション事業の拡大により注力していくことで、「持続的に事業収益拡大を実現する企業グループ」、「社会の発展と環境の保全・調和に積極的な役割を果たす企業グループ」、そして「すべてのステークホルダーにとって高い存在価値のある企業グループ」をあるべき姿として、2020年近傍には連結売上高3兆円、連結営業利益3,000億円を目指しています。

業績指標
2020年近傍(イメージ)

売上高
30,000 億円

基幹事業
15,000 億円
(50%)

戦略的拡大事業、重点育成・
拡大事業
15,000 億円
(50%)

グリーンイノベーション事業
10,000 億円
(33%)

ライフイノベーション事業
3,000 億円
(10%)

アジア・アメリカ・
新興国向け*
18,000 億円
(60%)

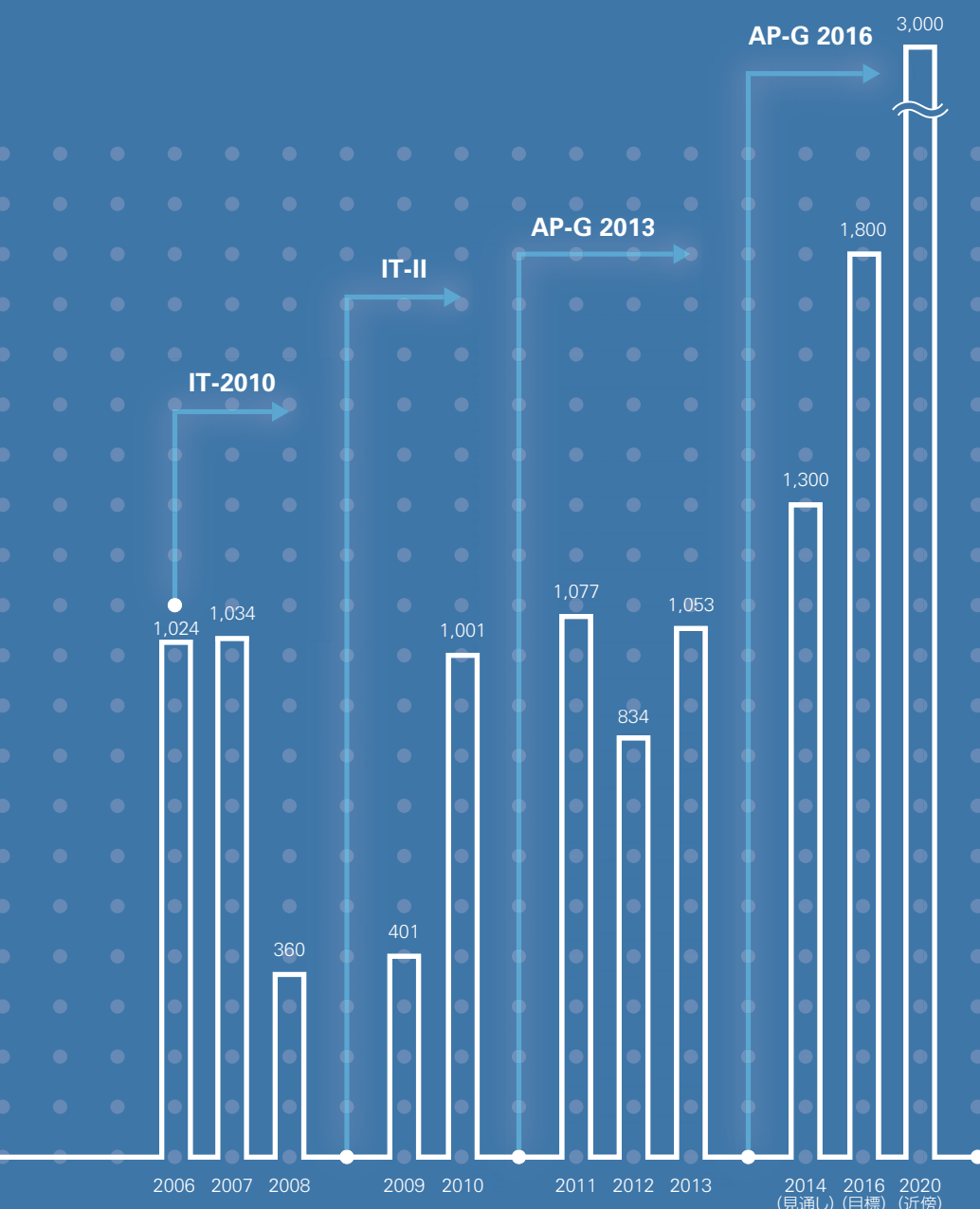
()内は、売上高に対する割合

営業利益
3,000 億円

営業利益率
10 %

ROA
10 %

ROE
13 %



中期経営課題“プロジェクトAP-G 2016” 長期経営ビジョンを実現するための3カ年を推進期間とする中期経営課題であり、成長戦略の実行と企業体質の強化に取り組んでいます。2013年度に終了した“プロジェクトAP-G 2013”では、新たな成長軌道に向け、成長分野及び成長地域における事業拡大が着実に進捗しました。2014年度からは、この「攻め」の経営姿勢を引き継いで、“プロジェクトAP-G 2016”をスタートさせ、2016年度の連結売上高2兆3,000億円、連結営業利益1,800億円を目指しています。

* “プロジェクトAP-G 2013”では「アジア・新興国向け売上高:15,000億円」と策定、“プロジェクトAP-G 2016”で上記修正。

財務・非財務ハイライト

東レ株式会社及び連結子会社
3月31日終了年度

	百万円					千米ドル ¹⁾
	2014	2013	2012	2011	2010	2014
財務情報						
連結会計年度						
売上高	¥1,837,778	¥1,592,279	¥1,588,604	¥1,539,693	¥1,359,631	\$17,842,505
営業利益	105,253	83,436	107,721	100,087	40,107	1,021,874
当期純利益(損失)	59,608	48,477	64,218	57,925	(14,158)	578,718
営業活動によるキャッシュ・フロー	161,455	100,815	104,410	129,214	166,215	1,567,524
投資活動によるキャッシュ・フロー	(214,826)	(107,525)	(104,002)	(50,734)	(121,723)	(2,085,689)
フリー・キャッシュ・フロー	(53,371)	(6,710)	408	78,480	44,492	(518,165)
財務活動によるキャッシュ・フロー	41,475	26,167	(23,645)	(33,039)	(43,361)	402,670
設備投資額	118,207	99,135	98,384	55,942	57,073	1,147,641
減価償却費	78,743	67,588	67,443	70,479	74,904	764,495
研究開発費	55,500	53,342	51,450	46,566	46,188	538,835

連結会計年度末

総資産	¥2,119,683	¥1,731,933	¥1,581,501	¥1,567,470	¥1,556,796	\$20,579,447
純資産	944,625	778,626	674,149	640,970	518,216	9,171,117

1株当たり指標(円及び米ドル)

当期純利益(損失):

潜在株式調整前	¥ 36.59	¥ 29.75	¥ 39.41	¥ 36.41	¥ (10.12)	\$ 0.36
潜在株式調整後	35.70	28.90	37.46	34.43	—	0.35
配当金	10	10	10	7.5	5	0.10
純資産	527.32	444.45	384.90	363.90	336.65	5.12

財務指標

売上高営業利益率	5.7%	5.2%	6.8%	6.5%	2.9%
自己資本比率	40.5%	41.8%	39.7%	37.8%	30.3%
ROA	5.5%	5.0%	6.8%	6.4%	2.6%
ROE	7.5%	7.2%	10.5%	10.9%	(3.0)%
D/Eレシオ	0.76倍	0.73倍	0.77倍	0.83倍	1.34倍

非財務情報

従業員数:

東レ単体	7,123	7,097	6,976	6,797	6,915
国内	10,247	10,177	10,303	10,261	10,339
海外	28,511	25,310	22,948	21,682	20,682
掛長級以上の女性比率(東レ単体) ^{*2}	7.95%	7.49%	7.06%	6.77%	6.36%
障がい者雇用率(東レ単体) ^{*3}	2.07%	2.03%	1.96%	1.95%	1.93%
社会貢献実績 ^{*4} (億円)	11	11	12	13	10

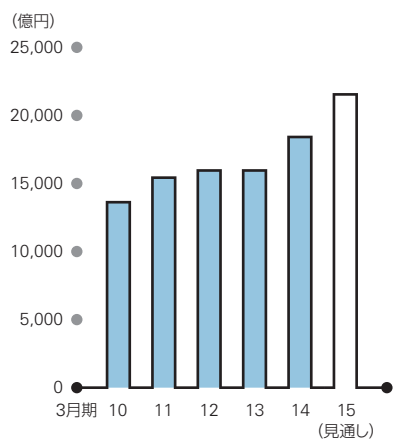
*1 記載されている米ドル金額は、便宜上2014年3月31日の為替レート(1米ドル=103円)により換算されたものです。

*2 各年とも4月時点。

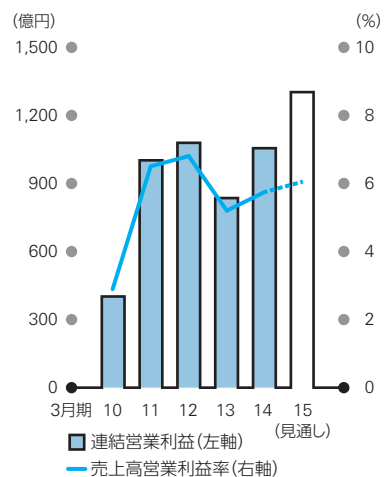
*3 各年とも6月時点。

*4 2014年3月期の実績内訳は、13ページのグラフをご参照ください。

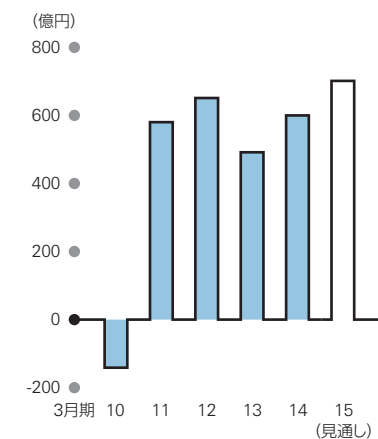
連結売上高



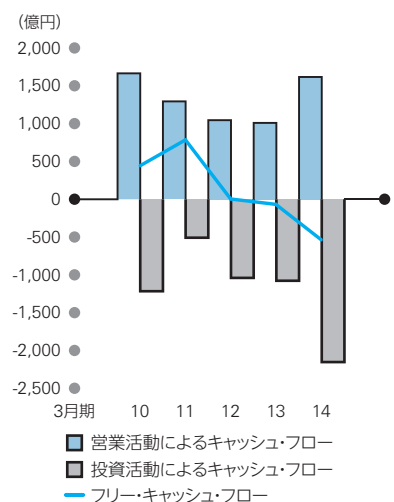
連結営業利益及び売上高営業利益率



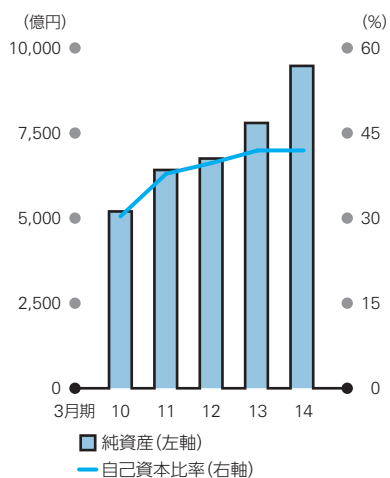
当期純利益 (損失)



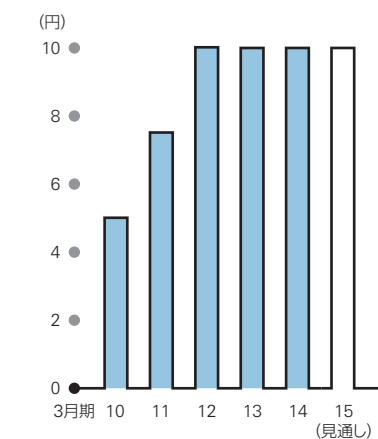
キャッシュ・フロー



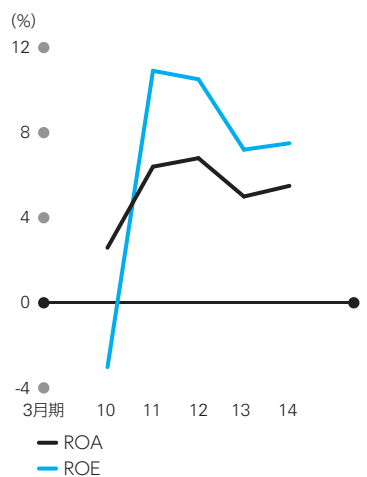
純資産及び自己資本比率



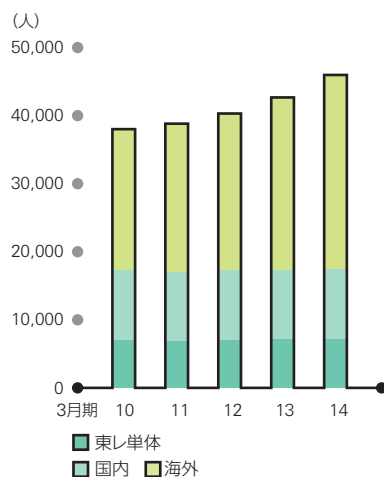
1株当たり配当金



ROA及びROE



従業員数



社会貢献実績内訳

